

## 2023年度（令和5年度）事業計画書

（2022年9月1日～2023年8月31日）

### 1. 会員について

会員数の推移は数年横ばいであるが、2022年度より学部・修士学生の年会費を無料にしたことで若い研究者の新規獲得を図る。正会員には本会の多種多様な魅力や特典をTwitterなど新たな周知方法により情報提供に努める。2025年に迎える創立100周年に向けて記念サイトを公開、100年の歩み、活動報告、寄稿文など多彩なコンテンツを網羅し、またサイトを通じてコミュニティの場を提供する。外部メディアなどを通して若手研究者のための海外留学助成金の周知を行う。雑誌「生化学」やJBのオープンアクセスの記事を増やし、非会員や一般の方にも無料で読める記事を増やす。

### 2. 大会およびシンポジウムの開催

第95回大会を2022年11月9日～11日に名古屋国際会議場で開催する。著名な方々の特別講演、企画・公募シンポジウム、などオンタイムセッションを予定。また、今期21回目となる国際会議としてのJBSバイオフロンティアシンポジウムの企画も会員から公募し、補助金を支給する予定。

### 3. 支部活動

各支部主催の例会・シンポジウムはこれまで支部内だけで活動していたが、支部同士での相互交流を図り、生化学若い研究者の会との連携を図り幅広く活動することとする。また、課題などの掘り起こしの場として会員同士の意見交換を行い、本部へ問題提起する。

### 4. 国際交流の推進

IUBMB、FAOBMBを構成する組織として国際交流を推進する。特にFAOBMBのプレジデントには本会の役員が就任しており、日本の代表学会という立場を活かし、国際会議主催の賞などに推薦候補者を募り、交通費補助を支給することにより、積極的に国際会議、シンポジウムへの参加を促す。

### 4. 会誌「生化学」の企画

支部選出委員の活動を通じ広い視野の内容や記事を掲載し、新企画を織り込む等内容を一層充実させる。特集号の発行にも努力する。外部企画協力委員からのプランも積極的に取り入れる。「生化学」電子版の機能をより充実させ利便性を図る。冊子版の発行部数は1,000冊/毎号、隔月発行を予定している。6か月経過したものは一般にも公開する。

### 6. Journal of Biochemistry (JB) の強化と充実

2022年は創刊100年を迎え、投稿論文、海外販売部数の増加を図り、インパクトファクター上昇を目指す。速報性を重視、投稿・出版費を無料として投稿者にとって、より良いJournalにすることを心がけ、また、JBシンポジウム、特集号を企画する。特集号はオープンアクセスとして誰でも読める。一般投稿者を対象にJB論文賞を募る。冊子版の発行部数は600冊/毎号、毎月発行を予定している。

### 7. 研究業績の顕彰

本会奨励賞およびJB論文賞の授与を継続して行う。本会で受賞審査を行っている（公財）俱進会主催「柿内三郎記念賞」と「同奨励研究賞」は、候補者募集の周知をはかり、知名度を上げるよう努力する。その他表彰および諸財団の研究助成事業に対し、本会会員より推薦する。

### 8. 若手研究者の奨励

生化学若い研究者の会への「夏の学校」の活動支援を継続する。本会大会で発表した若手研究者への若手優秀発表賞を継続し、若い研究者を活気づけるよう大会への参加も促す。高校生発表も指導、支援を行う。

### 9. 助成

2017年度から開始した「早石修記念海外留学助成」を、広く周知することに努め、将来日本の生命科学に貢献できる優秀な人材に海外留学費用を助成するものである。資金源は小野薬品工業（株）の寄付により一人当たり500万円年間8名までを10年間行う予定。